

21世紀の企業モデルを実現する情報技術

H I T O N O M E - T O K I N O M E

ひととの目の



時の芽

インターネット上で情報技術(IT)を活用した、いわゆるeビジネスが企業のあり方に変革をもたらしています。たとえば、企業間の電子商取引は直接取引であるB2Bに加え、eマーケットプレイス(電子市場)が台頭しています。さらに、eマーケットプレイスも、市場のセリのようなマッチング型と呼ばれる取引を、複数の企業の情報システムがインターネット上で直接行うシステムが関心を集めています。

このようなeビジネスの進化は企業の活動領域を広げ、企業の境界を越えた連携と競争を促進します。これには、ふたつの方向があります。ひとつは、受注から製造、出荷に至るビジネスプロセスに沿った企業連携です。eビジネスのキラーアプリケーションがSCM、すなわち、企業にまたがるサプライチェーンの計画・管理ソフトウェアであると言われるゆえんです。もうひとつは、地理的境界を超えた連携です。インターネットやモバイル通信によって、ビジネスが場所を選ばなくなりました。地理的な棲み分けがなくなることは、企業間の競争を激化します。最近のグローバルな企業合併・提携はこの帰結です。

航空産業が良い事例です。私は、この3年間、航空会社やコンピュータ企業の方と共同で、航空産業における情報技術の事例研究を行ってきました(青山幹雄編著「航空とIT技術」共立出版刊 2001年2月)。航空産業はグローバルな競争の真っ只中にあり、アライアンスと呼ばれる国際提携やインターネットの利用が活発です。それは、航空産業が本来グローバルなネットワークサービスであり、かつ、今や情報産業ともいえるほど情報技術を駆使する必要があるからです。自宅やオフィスからインターネットや携帯電話を利用してフライトの検索と予約、座席の指定をされた方もおられると思います。チケットレスサービスでは航空券も不要です。チェックインの電子化や機内からのインターネット利用も始まるようになっています。ホテルやレンタカーの予約など、関連産業との連携も進んでいます。これは、予約などの情報をコンピュータで管理すればよいからです。利用者から見れば複数の会社があたかも一つの会社であるかのように見えます。鉄道や宅配便も同様ですし、金融、出版、流通、公共サービスなど様々な分野でも同様の動きが見られます。

このような企業間連携の支援が今後の企業情報システムの要となります。本号のテーマであるEAI(Enterprise Application Integration:企業アプリケーション統合)は、企業間にまたがるビジネスプロセスと情報の連携を支援する基盤技術です。また、EAIは、その開発・普及にも企業の連携が重要です。その意味で、わが国のEAIの普及を促進するためにEAIソリューションファーム(注)が2000年5月に発足し、多くの企業の参画を得たことは大変意義のあることです。EAIが21世紀の企業モデルを実現する基盤技術として発展・普及することを期待します。

注)EAIビジネスの早期確立と育成をパートナー企業相互の協力と調査・研究・情報交換により積極的に促進し、EAIビジネスの発展に貢献する目的で発足。

新潟工科大学教授 青山幹雄

あおやまきお
1980年、岡山大学大学院工学研究科電子工学科専攻修士課程修了。同年4月富士通(株)入社。大規模通信ソフトウェアの開発、開発技術・管理技術・開発支援環境の開発と実践に従事。86～88年米国伊利ノイ大学客員研究員。95年4月より新潟工科大学情報電子工学科教授。主な研究分野は、ソフトウェア工学、特に、オブジェクト指向開発技術、コンポーネントウェア、開発支援環境、開発プロセスの改善。